



第27回日本海藻協会シンポジウム

国産テングサ資源を見直そう!!

懇親会参加の方
伊豆産テングサ
原藻謹呈!!

日時：2018年10月12日(金)13:30-16:45
会場：東京海洋大学楽水会館1F大講義室(東京都港区港南4-5-7)
参加費：無料(講演要旨集代1,000円, 会員のみ無料配布)
主催：日本海藻協会

12:15-13:15 総会(会員のみ:楽水会館2F小会議室)

13:15 シンポジウム開場

司会 日本海藻協会理事長 鈴木 実

13:30-14:00 開会のあいさつ 続いて

テングサとその群落を取り巻く状況

日本海藻協会会長 藤田 大介

14:00-14:40 伊豆半島におけるテングサ資源の動向と今後

静岡県水産技術研究所伊豆分場 長谷川 雅俊

14:40-15:20 伊豆大島および八丈島におけるテングサ資源の動向

東京都産業労働局島しょ農林水産総合センター 駒澤 一郎

15:20-15:30 休憩

15:30-16:10 世界最大生産国モロッコにおけるテングサ事情

豊通ケミプラス株式会社スペシャリティケミカル本部 藤井 健二

16:10-16:40 会員交流の時間

国内テングサ状況30年の動き~2018年を序として~

(株)森田商店 森田 庄次

その他 寒天関連企業会員から

16:40-16:45 閉会のあいさつ・日本海藻協会の紹介

日本海藻協会理事長 鈴木 実

17:00-19:00 懇親会(4,000円/人, 学生2,000円/人)

<企画趣旨>

今、世界中でテングサの需要が高まっています。日本では、古来、ところてん原料として利用され、寒天(凍結乾燥品)も発明されました。寒天は、健康食品として、あるいはスイーツの材料として再び注目される一方、微生物培地、電気泳動用ゲルなど医療分野での需要も急増しています。国内ではテングサ漁が衰退し、国外からの輸入も増えていますが、輸出を制限し始めた国もあり、今後の安定供給が課題となっています。今、国内のテングサ資源はどのような状態にあり、どのような取り組みがなされているのでしょうか？

参加者は、懇親会の参加の有無も書き添えて、10月5日(金)までにお申し込み下さい。
シンポジウムのみ参加者も、可能な限り、事前申し込みをお願いします。

申し込み先・問い合わせ先:日本海藻協会事務局(鈴木 実)

E-mail: info@japan-seaweed-association.com